

# 嵐山東学区



## データファイル

- 人口 7,471人
  - 世帯数 3,010世帯
  - 面積 4.984km<sup>2</sup>
- \*平成17年国勢調査(10月1日現在)



## 悠久の歴史をゆりかごに子ども達を育む嵐山東

嵐山は古代平安京遷都以来、風光明媚をもって一躍名勝の地として歴史上にも重きをなしつつ、近世に国の名勝・史跡に指定され、今では広域の地名としての嵐山という京都を代表する名所となっています。

北から南に豊かな清流の大堰川が緑豊かな山容を水面に映しながら悠然と流れ、その昔都人の優雅な舟遊びの姿を思い浮かべせ、私たちが歴史の彼方に誘い、古代の先人を忍ばせてくれます。この悠久の歴史を秘め、今や京都を代表する名勝「嵐山」は、日本書紀「顕宗記」では「荒櫟山（あらすやま）」と呼び、松尾大社鎮座記、日本書紀通証、また山城南勝誌にも「荒子山」がみられ、次第に「嵐山」とその名が定着して現在に至ったものです。

5世紀に入り秦氏が渡来しましたが、それ以前（大和朝廷成立以前）に既に北九州一円に住む安曇族が移住し、その人達が崇敬した月讀神社、櫟谷・宗像神社が招請されたといわれます。一方で松尾大社は京都最古の社ともいわれ、付近一帯の住民が農耕の神、村の守護神として松尾山上磐座に奉祀したのが起源とされています。秦氏は渡来後、701年（大宝元年）文武天皇の

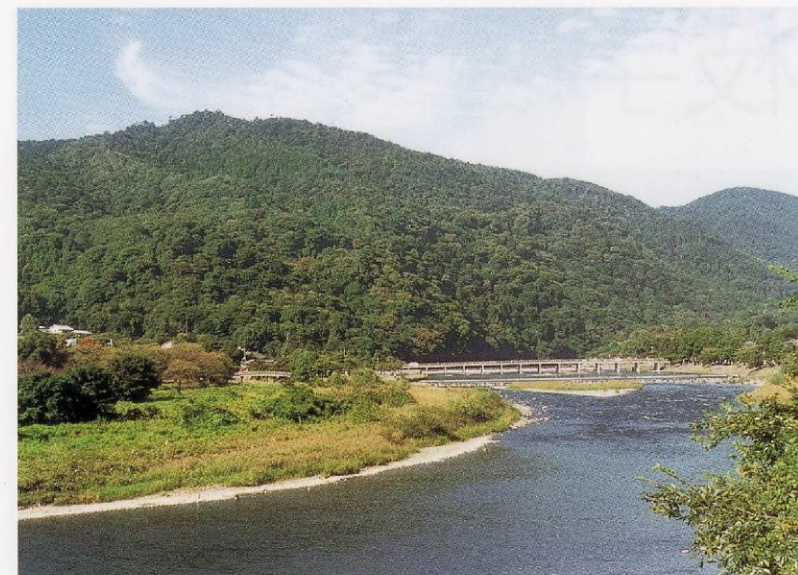
勅命により、現在の地に神殿を営み、磐座の神霊を遷したとされ、また一ノ井・二ノ井を開拓しました。

また、法輪寺は713年（和銅6年）、元明天皇の勅願により、僧行基が創建したとされ、ご本尊の虚空蔵菩薩は日本の三虚空蔵の一つとされています。

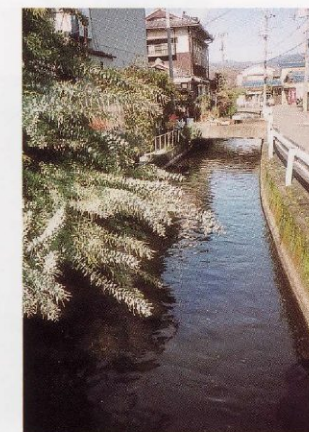
近現代に入り、1870年（明治3年）、京都府は「上山田・松室・松尾谷・下山田・御陵は松尾と称する」と布告、明治22年には町村制実施に伴い、5ヶ村が併合して松尾村が誕生しました。

1931年（昭和6年）、松尾村は京都市に編入され、学区制の適用により松尾学区となりましたが、1974年（昭和49年）、嵐山東小学校の開校により嵐山東学区として現在に至っています。

学区誕生から30余年を経た今、子どもたちの人数は減少傾向ですが、春は子ども神輿、夏はふれあい夏まつり、秋には体育祭…と、地域をあげての諸行事を通して子ども達を育み、「みまもりネット嵐山東」の創設で、安心して学べる環境づくりにも力を入れているところです。



渡月橋、嵐山を望む



二ノ井（東一ノ井）



櫟谷・宗像神社



松尾大社



法輪寺本堂



「みまもりネット嵐山東」の活動（嵐山東小学校前）



ふれあい夏まつり（嵐山東小学校）